



『重点目標と方策』に対する報告

【徳】 豊かな心の育成 ～生命尊重・人権尊重の精神の育成

1. 豊かな心の育成【徳】

(1) 生命尊重、人権尊重の精神の育成

- ・ いじめ対策： いじめ対策委員会を中心に、組織的な未然防止・早期対応、関係機関と連携した不登校対応を推進し、年間30日以上欠席児童7名となった。（前年13名）
- ・ 共生社会： 多様性社会、異文化理解の教育活動を充実させ、共生社会の形成に向けた取り組みを強化した。
- ・ 安全教育： セーフティ教室、メディアリテラシー教育等の「生命の安全教育」を実施し、安全・安心な学校生活を支援した。

(2) 全教育活動を通じた心を育てる教育の推進

- ・ 年間生活目標： 『年間生活目標 進んであいさつをしよう』の共通実践として児童会による「あいさつ運動」を通じ、「心」と「形」の育成を図った。
- ・ 自己有用感： 授業や特別活動を要とした自己有用感の育成とキャリア教育の充実を図り、キャリアパスポートを活用した。
- ・ 道徳教育： 「考え、議論する道徳」を充実させた。

(3) 特別支援教育の充実

- ・ 校内委員会： 校内委員会を核とした配慮を要する児童の指導方針の共有、専門機関、特別支援教室との連携を強化した。
- ・ 交流及び共同学習： 特別支援学級の児童の自立と社会参加を見据え、年間を通して通常学級との交流及び共同学習を充実させた。
- ・ 個別指導計画： 学校生活支援シート及び連携型個別指導計画の活用と保護者との合意形成を図った。

2. 児童・保護者からの評価

- ・ いじめ防止： いじめを起こさせない取り組み、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。（目標値90%、児童肯定的評価：89.6%、保護者肯定的評価：87%）
- ・ 挨拶： 進んで挨拶をする児童の育成に力を入れている。（目標値95%、児童肯定的評価：82%、職員肯定的評価100%）
- ・ 特別支援教育： 特別支援教育に積極的に取り組んでいる。（目標値90%、保護者肯定的評価：88%）

3. 今後の課題と展望

- ・ 児童・保護者からの評価を参考に、より効果的な教育活動の展開を目指す。
- ・ いじめ防止対策、挨拶運動、特別支援教育の更なる充実を図る。
- ・ 児童一人ひとりの個性を尊重し、豊かな心を育む教育を推進する。

1. 確かな学力の育成【知】

(1) 知識・技能の確実な習得

- **基礎・基本の徹底**：『習得目標値未達の学力向上計画』に基づき、ベーシックドリルと補習教室による基礎・基本の定着を図った。
 - 算数ベーシックドリル正答率 60%未達の児童の割合：59%（目標：20%未達）
 - 「習得目標問題」定着率：72%（目標：100%）
- **個別最適・協働的な学び**：**調べたり、話し合ったりしている児童の割合：90%（目標値未設定）
- **分かりやすい授業**：
 - 落ち着いて学習できる雰囲気：90.6%（目標：90%）
 - 学習環境の整備：90.5%（目標：95%）
- **授業改善**：姿勢保持を土台とした授業規律の確立、教室環境の整備、各種調査の分析を生かした授業の質向上に努めた。
- ****ユニバーサルデザイン**：ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法を工夫した。

(2) 思考力・判断力・表現力の育成

- **問題解決学習**：校内研究での学びを生かし、問題解決的な学習における一つ一つの過程を大切にした授業を徹底した。
- **郷土学習**：総合的な学習の時間や集団宿泊的行事を核とした郷土学習を充実させた。
- **読解力向上**：愛宕タイムの全校一斉朝読書や学校司書教諭、ボランティアの読み聞かせによる読解力向上を図った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の涵養

- **授業改善**：児童のやる気に火をつける授業の質向上、教える授業から児童が自ら学びあう協同的学習の授業への転換を図った。
- **評価**：適正で信頼される評価の推進に向けた指導と評価の一体化を推進した。
- **課外活動**：各種検定やコンクール、地域行事への参加を推奨した。

2. 今後の課題と展望

- 算数ベーシックドリルの正答率向上、習得目標問題の定着率向上など、数値目標達成に向けて更なる努力が必要である。
- 個別最適・協働的な学びの更なる推進、授業改善による児童の主体的に学習に取り組む態度の育成が課題である。
- 各種調査結果を分析し、授業改善に繋げていく必要がある。

【体】 健やかな体の育成～健康な生活習慣の確立

1. 運動を通した健康的な生活習慣の確立

・ 実施内容:

- 地域の方をゲストティーチャーとして招き、夏季休業期間にラジオ体操を実施。
- 運動会に向けて、地域の方をゲストティーチャーとして招き、練習を実施。

・ 成果:

- 児童の規則正しい生活習慣の確立。
- 運動会に向けた技能向上。
- 地域の方との交流による地域連携の推進。

2. 社会の変化に応じた学校安全の推進

・ 実施内容:

- 施設利用の団体に校庭整備を要請し、学校と一体となって安全管理を実施。
- 地域の方の協力を得てピーポ君の家の駆け込み体験を実施。

・ 成果:

- 校庭の安全性の向上。
- 児童の防犯意識の向上。
- 地域の方との連携による安全対策の強化。

3. 地域運営学校の強みを生かし、地域と協働した教育活動の一層の推進

・ 実施内容:

- 地域の方をゲストティーチャーとして招き、ラジオ体操、運動会の練習を実施。
- 施設利用の団体に校庭整備を要請し、学校と一体となって安全管理を実施。
- 地域の方の協力を得てピーポ君の家の駆け込み体験を実施。

・ 成果: (目標値 95%、保護者肯定的評価: 97.4%)

- 地域人材の有効活用。
- 地域の方との連携強化。
- 地域と一体となった教育活動の推進。

1. 小中一貫教育全体構想に基づく教育活動

小中学校教員が連携し、各教科の系統性を考慮したカリキュラムを開発・実施した。また、小中学校合同でスポーツイベントや補習学習などの行事を実施した。

2. 中1ギャップの緩和

小学校6年生と保護者向けに中学校生活説明会を実施したほか、中学校の授業を体験する機会を設けた。また、小中学校の生徒会・児童会が交流する「はちおうじっ子サミット」を実施した。

3. 小1プロブレムへの対応

保育園・幼稚園と小学校の教員が情報交換を行い、児童の状況を共有しスタートカリキュラムを作成した。また、作品展に保育園・幼稚園児が参観するなどの交流保育を実施した。

4. 学校運営協議会の熟議を踏まえた学校経営

学校運営協議会の意見を参考に、教育活動の内容や方法を改善した。また、学校運営協議会の意見を参考に、学校の自己評価を行った。

5. 地域との連携

地域人材を講師やボランティアとして学校に招き、授業や課外活動を支援してもらった。また、地域のイベントに児童が参加し、地域との交流を深めた。

6. 外部機関との連携

校内研究では講師を学校に招き、教員の指導力向上を図った。

7. 情報公開

学校の様子をホームページ「学校日記」で年間600回配信したほか、Home&Schoolで保護者向けの重要なお知らせを掲載した。

8. 今後の課題と展望

小中一貫教育の深化や地域連携の強化、情報公開の充実などが課題として挙げられる。これらの課題解決に向け、教職員一同、引き続き努力していく。